

平成29年度第1回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 平成29年5月30日(火) 午前10時～午前12時00分

2 場所 秋田市役所 正庁

3 出席者

(1) 委員 (11人)

相場哲也会長、廣嶋禮治副会長、石川承平委員、
奥田貴子委員、佐藤真知子委員、澤口勇人委員、
多田基大委員、中川聖子委員、長谷川元子委員
藤原はるみ委員、細部あけみ委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

碓谷阿津子子ども総務課長、赤上智子子ども育成課長、佐々木保施設指導室長、
茂木有子子ども健康課副参事、新田目剛子ども未来センター所長、ほか関係職

4 傍聴者 3人

5 会議の内容

○開会

○議事

- (1) 第2次子ども・子育て未来プランの進捗状況について
- (2) 就学前児童の居場所と施設数の推移について
- (3) 量の見込みと待機児童に基づく確保方策について
- (4) 市民意識調査項目について
- (5) その他

○閉会

6 議事要旨

○相場哲也会長

それでは、本日の議事の(1)「第二次子ども・子育て未来プランの進捗状況について」事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

○相場哲也会長

ただいまの説明に対しまして、委員の皆さまから、ご質問やご意見をお願いいた

します。

○澤口勇人委員

2 ページの「ネウボラ」という事業名についてですが、あまり認知されていないと感じています。もっとわかりやすい市民向けの事業名とした方が良いと思います。

5 ページの整理番号25番「放課後子ども教室推進事業」についてです。すべての事業に一環して言えることですが、数の理論と質の理論が伴っていないと思います。例えば児童センターでは、何十人の子どもに対して、指導員が2人で対応しているという状況です。施設数を整備しても、指導員の数が欠けています。施設数を指数として、達成率が100%とするだけでは危険だと思います。さらに内容についても検討していく必要があると思います。

6 ページの整理番号29番「乳幼児健康診査」についてです。健診は1歳半と3歳半があり、そこで保護者のかたへ気づきを与えてもらいたいと思いますが、数分の問診の中で判断するのは非常に難しいことでもあります。4歳になるとキッズステップノートが配付されますが、健診は就学前まで無くなってしまいます。自治体ではその間に4歳児健診など実施している自治体もあります。もう少し就学前までに健診を取り入れるなどをしてみてはいかがでしょうか。

26 ページの130番「私立保育所等障がい児保育事業」についてです。保育士の確保が難しい中で、障がい児を対応する専門性のもった保育士を確保することが非常に困難であります。確保できても現在の補助額では保育士1人雇用することができません。1人雇用できないことで預かれるはずの子どもが預かれないこともあります。

このように、数字だけだと見えてこないような問題がたくさんあります。この子ども・子育て会議はその問題を少しずつ解決していくはずの期間ですが、近年は回数も減り、承認期間のようになっていきます。そうではなく、様々な専門性を持った委員の皆様からアイデア出し合えるような機関になっていけばと思います。

○事務局（茂木子ども健康課副参事）

事業名については、「ネウボラ」と言う響きで関心を持ってもらうことや、全国的に日本版「ネウボラ」として、事業を実施していることもあり、この事業名としております。認知度は確かにまだ低いのですが、薬局やドラッグストアなどへの名刺型の周知用のカードの設置や、妊婦さん同士の口コミなどもあり徐々に認知されてきていると感じております。今後一層周知にも力を入れていきたいと思っておりますのでこの事業名でご理解いただきたいと思います。

次に、乳幼児検診についてです。キッズステップノートについては、保護者のかたが、早くからの発達に関する関心を広げてもらうことを目的として配付しております。3歳児健診では臨床心理士が気になるお子さんへの声かけを行ったり、前もって保育所からの情報提供がある場合は、個別に対応しております。また、保護者が気づいていない段階で保育士が気づいたことがあった場合の相談も受け付け、対応しております。4歳児健診などの他都市で実施している健診については、今後情報収集しながら実施について、検討していきたいと考えております。

○事務局（赤上子ども育成課長）

放課後子ども教室推進事業について、児童館では指導員2名体制で実施しているところがあり、増員により対応したいと考えておりますが、児童厚生員の確保が困難な状況です。補助員を設置し対応している施設もありますが、より安心して利用していただけるよう、今後、放課後子ども総合プラン推進委員会でも、実施体制について検討してまいりたいと思います。また、数だけではなく、児童厚生員の質の向上についても図っていきたいと考えております。

私立保育所等障がい児保育事業について、障がい児の受け入れに関する必要性は認識しておりますので、今後も財政面の支援や保育士人材バンクによる保育士の確保、施設の確保などの環境整備、および施設関係者との意見交換を実施し、より良い保育環境となるよう努めてまいります。

○相場哲也会長

このプランの目標設定については、数的な目標だけでなく、満足度なども必要ではないかと思えます。また、現場の声なども取り入れながら今後の施策に取り組んでいただければと思えます。

○渡辺丈夫委員

障がい児の受け入れに1号認定については、ご家族とお話する機会などからわかりますが、2号、3号認定についてはそうもいかないことですから、その前の段階で4歳児健診を取り入れるなど、認定前からきめ細やかな対応を行って欲しいと思えます。また親御さんからも理解を得られるよう、啓蒙活動にも取り組んでいただきたいと思えます。

○事務局（茂木子ども健康課副参事）

ご指摘のありましたとおり、啓蒙活動について取り組んでまいりますが、デリケートな問題のため、その問題だけではなく、広く相談を受け入れるような体制としております。4歳児健診について検討させていただきます。

○石川承平委員

幼児フッ化物塗布事業について、2、3歳については受診率が高くなっていますが、4、5歳になるとどうしても受診率が下がってしまいます。そのため施設でも受診をしていただくよう周知にご協力いただきたいと思えます。

○中川聖子委員

結婚支援について、市の事業では年齢を39歳までとしておりますが、私の周りにも40歳以上の独身のかたがいらっしゃいますので、年齢制限の見直しを図っていただきたいと思えます。

○事務局（碓谷子ども総務課長）

子ども未来部で行っている結婚支援は、若い世代が結婚して出産、子育てという一連の流れの初めのステップを支援するものであることから、年齢を制限させていただいているものです。しかしながら委員のおっしゃるとおり、40歳以上の出会いの場を求める声もあることから、昨年度は2回、40歳代を対象とした出会いの場を提供し

ております。

それでは、本日の議事の(2) 就学前児童の居場所と施設数の推移について事務局から説明をお願いいたします。

○渡辺丈夫委員

幼保連携型認定こども園を保育所としてカウントしているとのことですが、色々な統計でその表示がわかりにくいことが多いと感じます。

○相場哲也会長

全体的にどうなのか、表示の仕方について検討していただきたいと思います。

○相場哲也会長

それでは、本日の議事の(3) 量の見込みと待機児童に基づく確保方策について事務局から説明をお願いいたします。

○渡辺丈夫委員

本来2号認定だか、1号認定となっているケースなどがありますので、給食費や預かり保育の助成単価を上げるなどすると待機児童対策にも繋がると思います。

○事務局（赤上子ども育成課長）

検討課題としてお預かりさせていただきたいと思います。

○相場哲也会長

それでは、本日の議事の(4) 市民意識調査項目について事務局から説明をお願いいたします。

○相場哲也会長

次に、(5) 「その他」であります。何かございますか。

○相場哲也会長

ほかにございませつか。ないようです。これをもちまして議事を終了します。